

第4学年 国語科学習指導案

平成21年10月28日(水) 第5校時

指導者 池上 佳苗

- 1 単元名 くらしをみつめて
教材名 「手で食べる、はしで食べる」 学校図書 4年下
「文化の違いを調べて発表しよう」 学校図書 4年下

2 単元の目標

身近な題材に興味を持ち、書かれている内容を進んで読もうとしたり、身の回りのものを調べようとしたりする。(関心・意欲・態度)
調べたことや自分の考えを、相手に伝わるように筋道を立てて話したり、メモをとりながら聞き、感想をまとめたりすることができる。(話す・聞く)
細かい点に注意しながら段落相互の関係を読み取り、段落ごとの要点をまとめることができる。(読む)
段落ごとの要点を考え、まとめることができる。(書く)
指示語の働きに気づき、指示する内容をとらえることができる。(言語事項)

3 指導上の立場

(1) 単元について

本単元は、「手で食べる、はしで食べる」の説明文で、まとまりごとに細かい点に注意して内容を読み取ったり、段落ごとの要点をまとめたりする活動を通して、各国が生み出した文化について関心をもたせる。その後、「文化の違いを調べて発表しよう」で、説明文から生じた興味・関心をもとに課題を見つけ出し、ポスターセッションで発表をするために調べ学習をする。4年では、説明文「地下からのおくり物」「あめんぼはにん者か」で段落の要点をとらえ、段落と段落の関係を考えながら読む学習をしているので、段落相互の関係を読み取る時には、既習事項を振り返りながら学習を進めていきたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、男子15名女子9名の計24名である。読書の好きな児童が多く、週2回の朝読書では集中して読書をすることができる。また、図書室の本の中から、関係のある本を選び調べ学習をすることができる。予習をいかした授業を進めるために、視写をしたノートに意味調べをしたり、指示語の内容や心情を書き込んだりしてきているが、書き込みの量と質にはたいへん個人差が見られるので、授業中に書き込み活動をして個別指導をしている。また、今まで、まとめの段階で、要点となるキーワードを見つけ出させてきたが、しだいに、中心文を見つけ出し、それに自分の感想や意見をいれてまとめられるようにさせたい。

(3) 指導観について

日本と外国の食文化や生活習慣の違いに着目させて内容を読み取らせ、それぞれの国が生み出した文化に関心を持たせる。また、その違いについて「自分たちはこうなのだけれど、外国ではどうなのだろうか」という視点に立って食文化以外からも課題を見つけさせ、それをポスターセッションでまとめさせる。調べたことやまとめたことをわかりやすく伝え合えたり、話の要点をメモしながら聞き、疑問点を質問したり感想をまとめたりする活動を通して自分の考えを深めてさせていきたい。

本時は、日本とインドについて書かれていることを色分けをしたり、ワークシートを手がかりに違いをまとめたりすることによって、食べ方がなぜ違うのか、どうして違うのかということを読み取っていききたい。

(4) 研究テーマとの関わりについて

本校では、小中一貫教育のテーマ「小中学校の連携による生きる力を持った子どもの育成」をあげている。「学力向上」を重点課題とし、わかる授業づくりをめざして取り組んでいるところである。

国語科では、説明的な文章を中心に、児童の読解力を高めるための授業づくりを研究している。中学年では、しっかり聞いてからメモをとる活動や相互指名により話し合いを深める活動に重点をおいてきた。また、予習の充実により、授業への学習意欲と関心意欲の向上を図りたいと考えている。本教材では、それぞれの国によって、文化が「なぜ」「どのように」違うのかを見つけ、主体的に読む力をつけていきたい。

4 指導計画(全16時間)

第一次	「手で食べる、はしで食べる」全文を読み、計画を立てる。-----	3時間
第1時	題名について話し合う。	
第2・3時	全文を読み通し、読みの計画を立てる。	
第二次	段落のまとまりごとに文章を読み、要点をとらえる。-----	7時間
第1～3時	ご飯の食べ方の違いとその理由を調べる。-----	(2/3本時)
第4～6時	はしの形や使い方の違いを調べる。	
第7時	「手で食べる、はしで食べる」のまとめをする。	
第三次	「文化の違いを調べて発表しよう」全文を読み、調べ学習をする。-----	4時間
第1時	「文化の違い」について課題を見つけ、計画を立てる。	
第2～4時	ポスターセッションの発表資料を作成し、発表の練習をする。	
第四次	発表会をする。-----	2時間

5 本時案（第二次 第2時）

目 標	米の形と性質の違い、食に対する考え方の違いにより、手で食べるか、はしで食べるかに分かれたことが理解できる。 (読む)	
学習活動	教 師 の 支 援	評価規準・方法等
1 本時の課題をつかむ。	で述べられている筆者の疑問を確認し、本時の課題をつかませる。	
インドの人たちが、日本と違って、ご飯を手で食べる理由を考えよう。		
2 音読をする。	<p>課題の説明が ~ に書かれていることに気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「このように」など、段落のつながりを表す表現に着目するよう助言する。 ・ がまとめの働きをしている段落であることをおさえる。 	
3 日本とインドのご飯の食べ方の違いを読み取る。	<p>課題を解決するために、取り上げる言葉や文に着目しながら音読をさせる。 ~ を指名読みをさせる。</p> <p>書き込みプリントに、日本について書かれてあるところに赤、インドについて書かれてあるところに青で線を引かせながら、読み取りをさせる。</p> <p>「手で食べる」国のインドと、「はしで食べる」国の日本が対比して書かれてあることに気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見つけにくい児童には、対比的に書かれている表現を示しながら、中心となる言葉に着目できるようにする。 <p>予習でしていたワークシートをもとに、日本とインドを対比させながら違いを整理させる。</p> <p>友だちの発表後、自分のワークシートにメモをさせる。</p>	日本とインドを対比させた読み取りができているか。 (読む)
4 日本とインドのご飯の食べ方の違いについて考える。	<p>ワークシートをもとに、日本とインドのご飯の食べ方の違いを2人組で説明をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの説明のわかりやすいところとわかりにくいところを見つけて助言し合うようにする。 <p>発表の後、更に、ワークシートに付け加えをさせる。</p>	日本とインドを対比させながら説明ができたか。 (話す)
5 本時のまとめをする。	手で食べるか、はしのように道具を使うかに分かれた理由が「形の違い」「性質の違い」「考え方の違い」であることをおさえる。	
6 次時の学習を知る。	対比した書き方の工夫について学習をすることを知らせる。	

